

一日研報告

期 日 2019年12月27日

場 所 サンワーク総社

参加者 7名 (O、CH、YO、TA、AS、IK、AK)

内容

「大造じいさんとガン」記録・映像 (YO)

「あいしているから」記録・映像 (AK)

「大地讃頌」映像 (YO)

「版画下がき (自画像)」(AK)

今年最後の例会は、新採用の AS さんと来年新採用になる大学生の IK さんも参加されました。初めての方や学生の方にわかりやすくするために、一つ一つの実践をじっくりと検討しました。

今日の一つのテーマは「具体」でした。

CH さんのレポートは YO さんのクラスでの介入授業や記録を起こしていただき、そこから学びました。たくさんあるレポートの中でどこを取り上げるのかということは、授業でどこを取り上げるのかと似ています。ただ「逆接」ということを取り上げるのではなく、逆接に含まれる「普通なら」の「普通」や「じたばたしない」という具体のイメージを引き出すことで、よっぼど感を増すことにつながります。改めて逆接を丁寧に扱う大切さを学びました。

YO さんの記録では、記録からわかる具体的な言葉のどこにひっかかり、対立を組むのかを考えました。散漫にならないために考えたいところまで導く、というのはよくやりますが、その範囲の広さ（泳がせて言わせる余裕）が大切になります。そのための準備（解釈）をどれだけできるかが鍵でした。ですが、やはり YO 学級の子どもたちの発言はすごいものがあります。あんな風に言えるようにしたい、そんな憧れがあります。

フリートークでは、憧れをもつことの大切さが話題になりました。若い方には憧れとまではいかななくても、「あんな風にしたい」と思えるきっかけになればいいなと思います。

「あいしているから」では、解釈に無理があることや扱うべき問題なのかが話題になりました。自分の解釈の脆さに気付けるのは、こうしてたくさんの方と考えられるからです。ありがとうございました。

「大地讃頌」では、これまで吉岡さんが積み重ねてこられたことを子どもたちが懸命に実践しようとしていました。先生の熱意が伝わっていました。戸田先生の映像を憧れとして、私も合唱をがんばりたいと思います。

「自画像」は、「子どもらしさが出ている」「よく描けている」と言っていただき、嬉しかったです。子どもたちが本当に何時間もかけてよく粘って描きました。次取り組むならば水彩画の自画像を、今回より時間をかけ過ぎないようにしてみたいと思います。(文責 AK)